◆当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

KAWAI DIGITAL PIANO
PN270
取扱説明書

●同梱品
□本体
□スタンド一式
□電源コード
□取扱説明書（本書）
□保証書
□スタンド組立図
□専用椅子（WB-6）
□ヘッドホン（SH-2）
□ご愛用者カード
□アフターサービスと音楽教室のご案内
□「コンサートマジック曲集」のご案内
□「コンサートマジック曲集」注文振込用紙
（全て各1部）

《ごあいさつ》

このたびは、KAWAI 電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。本機では、ピアノ音色をはじめ全8種類の音色で演奏を楽しむことができます。また、自分の演奏を録音する機能，デュアル演奏やコンサートマジックなど、多彩な機能を装備しています。さらに、電子楽器統一規格であるMIDI 機能も装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブル等、バラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。

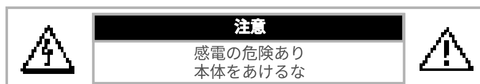
本機の性能をフルに発揮させていただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

目次

◆安全上の注意 2
1.各部の名称と働き 4
◇ 操作パネル 4
◇ ペダル 4
2.演奏してみましょう 6
1）基本操作 6
2）デュアル演奏 7
3）コーラス / リバーブ 8
4）デモ曲の演奏 9
5）コンサートマジック 10
6）トランスポーズ 12
7）メトロノーム 13
3.録音・再生 14
1）録音 14
2）再生 16
◇ パートのミュート 16
3）パートのデータの消去 17
4.設定モード 18
1） タッチカーブ・セレクト 19
2）チューニング 19
◇ MIDI 機能の使い方 20
◇ 本機 MIDI 機能 21
3） MIDI送信・受信チャンネル 22
4） MIDIチャンネルを1にする 22
5）ローカルコントロール 22
6） マルチティンバー・モード 23
7） プログラム（音色）ナンバー送信 23
8）リセット 23
5. 付　録 24
1）外部機器との接続 24
2）スタンド組立方 25
3）主な仕様 26
MIDI IMPLEMENTATION CHART 27

◆安全上の注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

 このマークは、感電の危険があることを警告しています。

 このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。

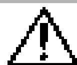
 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

 △記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

 ○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

 ●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。



警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

100V以外禁止   

●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

濡れた手で触らない  

●感電の原因になります。

◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける,かける,こぼす）などしない



●漏電によって、感電や発火の原因になります。

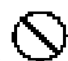
◆本機の上に乗ったり倒したりしない

落とさない  

●運搬の際は、必ず２人以上で運んで下さい。

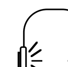
◆イスは次のように使用しない

●イスで遊んだり、踏み台にしない
●イスには2人以上で座らない
●イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
●イス組立時、ネジをしっかり締める

使用しない 

●イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止  

●聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

分解禁止  

●故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

プラグ部分を持つ  

●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く 

●落雷時に火災の原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

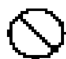
ゆっくりしめる  

●いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

⚠注意

◆本機を次のような所では使用しない

●窓際など直射日光の当たる場所
●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
●戸外など極端に温度の低い場所
●極端に湿度の高い場所
●砂やホコリの多い場所
●振動の多い場所

使用禁止 

●故障の原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

電源を切る  

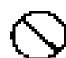
●本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない  

●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆本機の鍵盤にもたれない

もたれない 

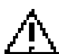
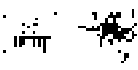
●本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す  

●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コード、接続コード類はからまないように接続する

からまないようにする  

●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止  

●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない  

●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●容易にコンセントの抜き差しができるよう、本機を電源コンセントの近くに設置してください。

●パイロットランプが消えていても、コンセントを差し込んだ状態であれば、機器に電源がつながっていますので感電に注意ください。

■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

■修理について

●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

1.各部の名称と働き

電子ピアノに付いている、レバーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

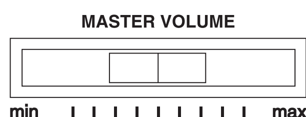
◇ 操作パネル

● CONCERT MAGIC（コンサートマジック）
鍵盤を弾くタイミングと強さに応じて内蔵曲を再生することができます。(P.10参照)

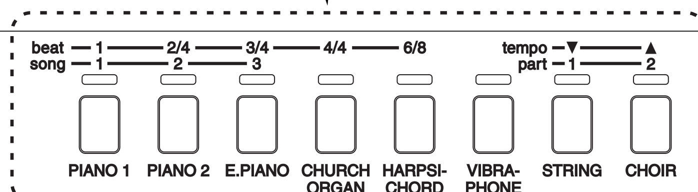
● 音色ボタン
音色を選択するボタンです。
演奏したい曲目などに合わせてボタンを押してください。
押されたボタンの赤いランプが点灯します。(P.6参照)

● MASTER VOLUME（マスターボリューム）
内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。
max側にいくほど音量が大きくなり、min側にいくほど音量が小さくなります。
(P.6 参照)

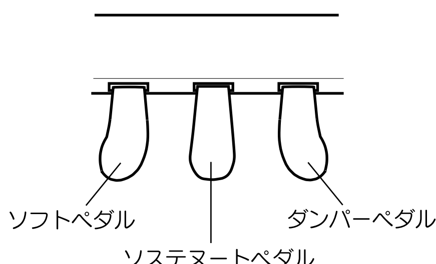
● DEMO（デモ）
デモ曲を演奏します。
選曲は、音色ボタンで行います。
(P. 9 参照)



CONCERT MAGIC
DEMO



◇ ペダル



● ダンパーペダル

音に余韻を与えます。
ピアノの音は、鍵盤を押すとハンマーが弦をたたき、音が発音しますが、指を離すとダンパーが弦を止めて発音が止まります。
ダンパーペダルを踏むと指を離してもダンパーが弦を止めないため、音が止まらず豊かな響きが得られます。

● ソステヌートペダル

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。
従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

● ソフトペダル

音色がやわらかくなり音量も小さくなります。
音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。

● **TOUCH（ﾀｯﾁ）**
タッチの感度を切り換えるボタンです。消灯でノーマルタッチです。(P.19参照)

● **TRANSPOSE（ﾄﾗﾝｽﾎﾟｰｽﾞ）**
弾き方を変えずに移調する機能です。調の異なる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏をする時などに便利です。(P.12参照)

● **FUNCTION（ﾌｧﾝｸｼｮﾝ）**
TOUCHボタンとTRANSPOSEボタンを同時に押しながら鍵盤を押して、設定モードに入ります。(P.18参照)

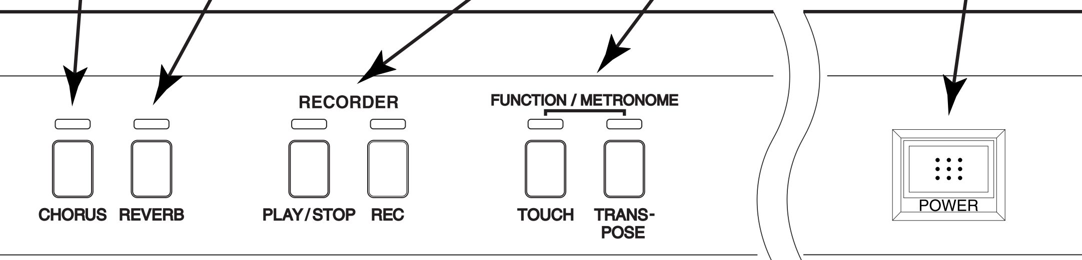
● **METRONOME（ﾒﾄﾛﾉｰﾑ）**
TOUCHボタンとTRANSPOSEボタンを同時に押して、メトロノーム音を鳴らします。(P.13参照)

● **RECORDER（ﾚｺｰﾀﾞｰ）**
PLAY/STOP,RECの 2つのボタンを使って、あなたの演奏を録音、再生することができます。(P.14参照)

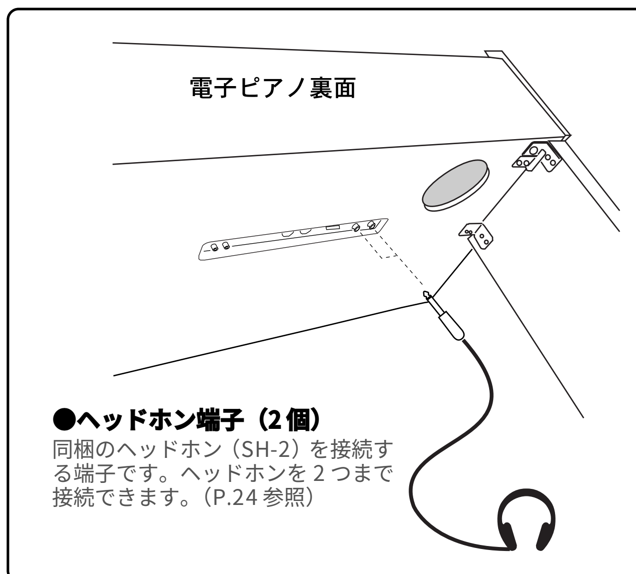
● **CHORUS（ｺｰﾗｽ）**
音にゆったりとした広がりを与えるコーラス効果がえられます。(P.8参照)

● **REVERB（ﾘﾊﾞｰﾌﾞ）**
音にリバーブ効果（残響効果）を与えることで、美しい響きが得られます。(P.8参照)

● **POWER（電源ｽｲｯﾁ）**
電源をON/OFFするスイッチです。ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。(P.6参照)



◇ ヘッドホン



●ヘッドホン端子（2 個）
同梱のヘッドホン（SH-2）を接続する端子です。ヘッドホンを 2 つまで接続できます。（P.24 参照）

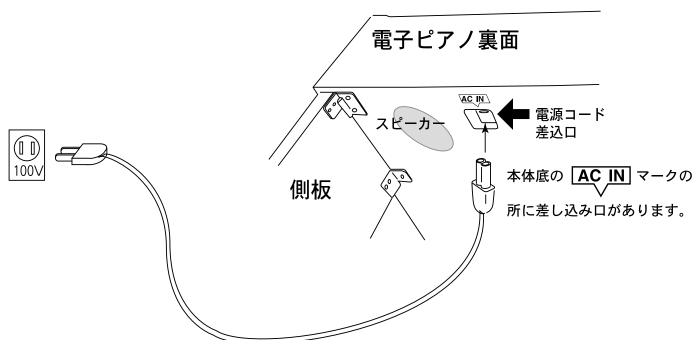
2.演奏してみましょう

ここでは、電源を入れ音を出すまでの基本的な手順を説明します。

1）基本操作

□ ***操作１***

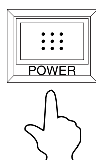
付属の電源コードを AC100V の
コンセントに差し込みます。



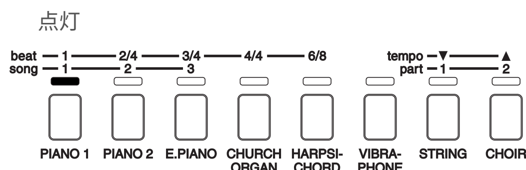
□ ***操作２***

POWER（電源）スイッチを押して電源を
ON にします。

電源を入れると音色セレクトボタン の
PIANO 1 ボタンのランプが点灯します。

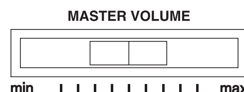


点灯



□ ***操作３***

VOLUME レバーを中央付近にセットします。



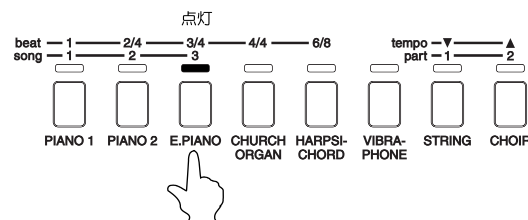
□ ***操作４***

音色を選びましょう。

音色セレクトボタンの中から好きな音色 を選んで押してください。
押された音色のランプが点灯し選択されます。

エレクトリックピアノの音で演奏したい場合は、
右図のように E.PIANO ボタンを押し
点灯させます。

点灯



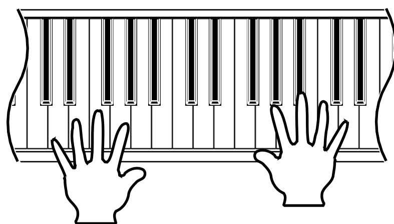
■ **内蔵音色**

◇ **PIANO1［ﾋﾟｱﾉ1］**	当社の最高級グランドピアノ「EX」の音です。
◇ **PIANO2［ﾋﾟｱﾉ2］**	ブライトピアノの音です。明るめなピアノの音です。
◇ **E.PIANO［ｴﾚｸﾄﾘｯｸﾋﾟｱﾉ］**	エレクトリックピアノの音です。
◇ **CHURCH ORGAN［ﾁｬｰﾁｵﾙｶﾞﾝ］**	パイプオルガンの音で、教会などで賛美歌演奏に使われています。
◇ **HARPSICHORD［ﾊｰﾌﾟｼｺｰﾄﾞ］**	バロック音楽などで使われている別名チェンバロの音です。
◇ **VIBRAPHONE［ﾋﾞﾌﾞﾗﾎﾝ］**	大型の鉄琴の音です。共鳴管の美しい響が得られます。
◇ **STRING［ｽﾄﾘﾝｸﾞ］**	弦楽合奏音です。
◇ **CHOIR［ｸﾜｲﾔｰ］**	人の合唱の声です。

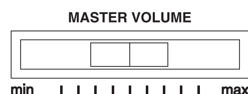
□ 操作 5

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば "操作 4" で選んだ音で演奏することができます。



音量を調節したい時は、VOLUME レバー を操作します。



■ 複数の鍵盤を同時に押した時の発音数は、最大 32 音です。（最大同時発音数）

2）デュアル演奏

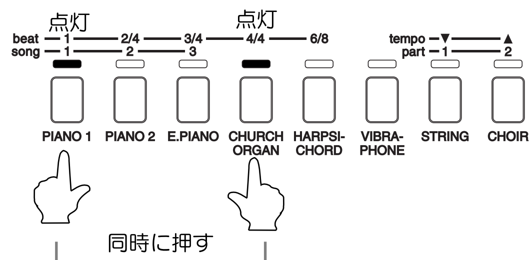
デュアル演奏では 2 つの音色を重ね合わせて演奏する事ができます。鍵盤を弾けば、選んだ 2 つの音色が同時に発音し、音に独特の厚みを与えることができます。

□ 操作 1

2 つの音色ボタンを同時に押します。

押された 2 つの音色ランプが点灯します。

ピアノ 1 とチャーチオルガンの音を重ね合せたい場合は、右図の様な操作になります。



□ 操作 2

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば選択した 2 つの音色が重なって発音されます。

□ 操作 3

デュアル演奏を解除する時は、音色セレクトボタンのどれか 1 つを押します。

新たに音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

3）コーラス / リバーブ

本機では、音色に 2 種類の効果を与えることができます。

■ コーラス

元々の音にピッチの揺らぎをもつ音を合わせることにより、音に広がりを加えます。

■ リバーブ

音に残響効果が加わり深みのある美しい響きが得られます。
3 種類のリバーブを内蔵しています。

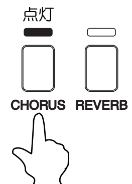
- **ルーム　：部屋での残響音をシミュレートしています。**
- **ステージ　：ステージでの残響音をシミュレートしています。**
- **ホール　：ホールでの残響音をシミュレートしています。**

◇ 音にコーラス効果を加える。

□ 操作 1

CHORUS ボタンを押します。

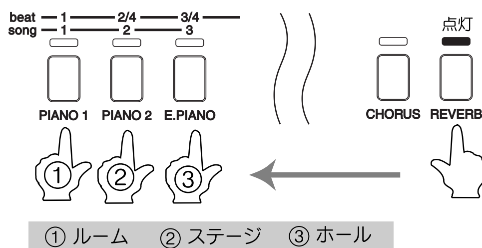
CHORUS ボタンのランプが点灯し、音にコーラス効果を加えます。
再度 CHORUS ボタンを押してランプを消灯させれば、コーラスが解除されます。



◇ 音にリバーブ効果を加える。

□ 操作 1

REVERB ボタンを押しながら、PIANO1, PIANO2, E.PIANO のいずれかのボタンを押します。



PIANO1, PIANO2, E.PIANO ボタンを押して、ルーム , ステージ , ホールの選択をします。
REVERB ボタンのランプが点灯し、音にリバーブ効果を加えます。
再度 REVERB ボタンを押してランプを消灯させれば、リバーブが解除されます。

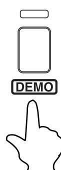
4）デモ曲の演奏

本機には、各内蔵音色毎にその音色を生かしたデモ曲（ピアノ１の音色デモを７曲、他の音色は各１曲）を14曲内蔵しています。　各音色のデモ曲は、以下の通りです。

● PIANO1	：アラベスク第一番/ドビュッシー	● PIANO2	：オリジナル
	トルコ行進曲/モーツァルト	● E.PIANO	：オリジナル
	エリーゼのために/ベートーベン	● CHURCH ORGAN	：トッカータ/ジグー
	別れの曲/ショパン	● HARPSICHORD	：フランス組曲第6番/バッハ
	花の歌/ランゲ	● VIBRAPHONE	：オリジナル
	貴婦人の乗馬/ブルグミュラー	● STRING	：四季より「春」/ヴィヴァルディ
	幻想即興曲/ショパン	● CHOIR	：オリジナル

□ ***操作１***

DEMO ボタンを押します。



DEMO ボタンのランプが点灯し、音色ボタンが点滅します。
そのまま何も操作しなければ、ピアノ１の音色デモ曲が演奏されます。
ピアノ１のデモ曲の演奏後、各音色のデモ曲が順不同に演奏されます。
再度 DEMO ボタンを押すまで演奏を続けます。

□ ***操作２***

操作１でデモ曲演奏中に、音色ボタンを押して、曲を変更することができます。

ピアノ１のデモ曲は７曲内蔵しており、順に再生されますが、PIANO1 ボタンを繰り返し押すことにより、次の曲を選ぶことができます。

□ ***操作３***

再度、DEMO ボタンを押せば、デモ曲の演奏は停止します。

5）コンサートマジック

コンサートマジックでは、鍵盤を押す度に曲の演奏を進めていくことができます。
誰にでも、（高度な曲が弾けない人にも）鍵盤を使って演奏を楽しむことができます。
本機には、コンサートマジック用に 7 グループ ,40 曲の演奏曲を内蔵しています。

最低音

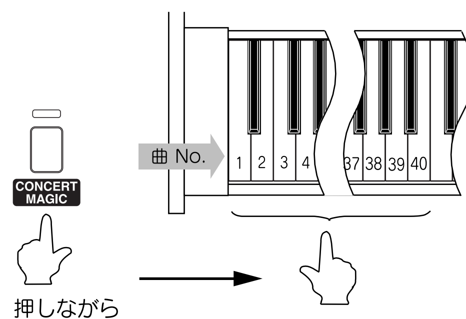
●子供の曲	1	A	・・・・・・きらきら星
		A#	
	2	B	・・・・・・メリーさんのひつじ
	3	C	・・・・・・ロンドン橋
		C#	
	4	D	・・・・・・10人のインディアン
		D#	
	5	E	・・・・・・ブラームスの子守歌
	6	F	・・・・・・茶色の小瓶
		F#	
	7	G	・・・・・・ワラの中の七面鳥
		G#	
	8	A	・・・・・・山の音楽家
		A#	
● クリスマスの曲	9	B	・・・・・・ジングルベル
	10	C	・・・・・・もろ人こぞりて
		C#	
	11	D	・・・・・・きよしこの夜
		D#	
	12	E	・・・・・・おめでとうクリスマス
	13	F	・・・・・・グリーン・スリーブス
		F#	
	14	G	・・・・・・アメージング・グレース
● クラシック音楽		G#	
	15	A	・・・・・・喜びの歌（交響曲第9番「合唱」より）/ ﾍﾞｰﾄｰﾍﾞﾝ
		A#	
	16	B	・・・・・・眠りの森の美女/ﾁｬｲｺﾌｽｷｰ
	17	C	・・・・・・花のワルツ（ 「くるみ割り人形」より）/ ﾁｬｲｺﾌｽｷｰ
		C#	
	18	D	・・・・・・闘牛士の歌（「ｶﾙﾒﾝ」組曲より）/ ﾋﾞｾﾞｰ
		D#	
	19	E	・・・・・・ウィリアムテル序曲/ ﾛｯｼｰﾆ
	20	F	・・・・・・家路（交響曲第9番「新世界から」より）/ ﾄﾞﾎﾞﾙｻﾞｰｸ
		F#	
● アメリカの クラシック音楽	21	G	・・・・・・リパブリック賛歌
		G#	
	22	A	・・・・・・アルプス一万尺
		A#	
	23	B	・・・・・・峠の我が家
	24	C	・・・・・・草競馬
		C#	
	25	D	・・・・・・聖者の行進
		D#	
	26	E	・・・・・・ケンタッキーの我が家
	27	F	・・・・・・線路は続くよどこまでも
		F#	
	28	G	・・・・・・おじいさんの古時計
● 日本の名曲		G#	
	29	A	・・・・・・さくらさくら
		A#	
	30	B	・・・・・・もみじ
	31	C	・・・・・・おぼろ月夜
		C#	
	32	D	・・・・・・浜辺のうた
		D#	
	33	E	・・・・・・ゆき
● 式典の曲	34	F	・・・・・・蛍の光
		F#	
	35	G	・・・・・・婚礼の合唱 / ワグナー
		G#	
	36	A	・・・・・・結婚行進曲 / メンデルスゾーン
● 世界の民謡		A#	
	37	B	・・・・・・アニー・ローリー
	38	C	・・・・・・フニクリ・フニクラ
		C#	
	39	D	・・・・・・サンタ・ルチア
		D#	
	40	E	・・・・・・こぎつね

◇ コンサートマジック曲の選択

40曲のコンサートマジック曲は、鍵盤に割り当てられており（左図参照)、この鍵盤を使って曲を選択することができます。

◇ *操作 1*

CONCERT MAGICボタンを押しながら曲が割り当てられている鍵盤を押します。



■ 曲名とその割り当てられている鍵盤については、左図を参照ください。

◇ コンサートマジック曲の演奏

鍵盤を弾くタイミングで演奏を進めることができます。
また鍵盤を弾くタッチによって強弱をつけることもできます。

◇ *操作 1*

コンサートマジック曲を選択した後、鍵盤を弾きます。

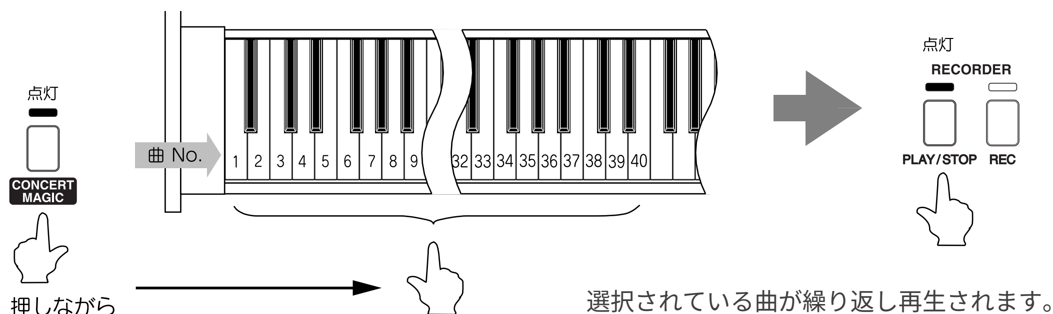
■ 通常の音色変更の場合と同様の操作で、音色を変更することができます。

◇ コンサートマジック曲の再生

コンサートマジック曲は、普通のデモ曲として再生することができます。
どんな曲かまず聴いてみたいときに便利な機能です。

◇ 操作 1

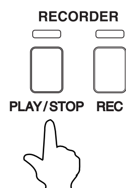
CONCERT MAGIC ボタンを押しながら鍵盤を押して選曲した後、PLAY/STOP ボタンを押します。



◇操作 2

演奏を止めるには、もう一度 PLAY/STOP ボタンを押します。

PLAY/STOP ボタンのランプが消灯します。



◇ その他の再生方法 （チェイン再生 / グループ再生 / ランダム再生）

※チェイン再生

CONCERT MAGIC ボタンを押した後、鍵盤で曲選択をせずに PLAY/STOP ボタンを押します。

1 曲目から 40 曲目まで順番に繰り返し再生します。

※グループ再生

DEMO ボタンを押しながら鍵盤を押します。

この場合、選択した曲が含まれるグループの曲を順番に繰り返し再生します。
例えば、No.11 の「きよしこの夜」を選ぶと、この曲から演奏が開始され、No.9 ～ No.14 のグループ「クリスマスの曲」を繰り返し再生します。

※ランダム再生

CONCERT MAGIC ボタンを押した後、DEMO ボタンを押します。

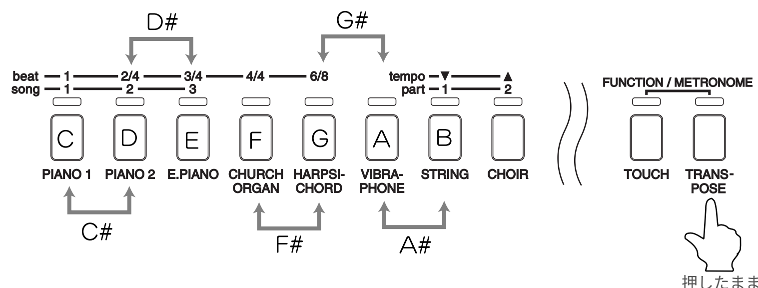
全内蔵曲を対象に、順不同に曲の再生をし続けます。
但し、1 曲目は「きらきら星」です。

6）トランスポーズ

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。本機では、TRANSPOSE ボタン を押しながら音色ボタンを押すことで、-3 音(F#)〜 +2 音半(F)まで設定できます。

□ 操作 1

TRANSPOSE ボタン を押したまま、変更したい調の音色ボタンを押します。



● **PIANO1 ボタン を押す。**	±0音	(C)
● **PIANO1,PIANO2 ボタン を同時に押す。**	＋半音	(C#)
● **PIANO2 ボタン を押す。**	＋１音	(D)
● **PIANO2,E.PIANO ボタン を同時に押す。**	＋１音半	(D#)
● **E.PIANO ボタン を押す。**	＋２音	(E)
● **CHURCH ORGAN ボタン を押す。**	＋２音半	(F)
● **CHURCH ORGAN,HARPSICHORD ボタン を同時に押す。**	－３音	(F#)
● **HARPSICHORD ボタン を押す。**	－２音半	(G)
● **HARPSICHORD,VIBRAPHONE ボタン を同時に押す。**	－２音	(G#)
● **VIBRAPHONE ボタン を押す。**	－１音半	(A)
● **VIBRAPHONE,STRING ボタン を同時に押す。**	－１音	(A#)
● **STRING ボタン を押す。**	－半音	(B)

■ TRANSPOSE ボタン を押しているとき、現在セットされている調の音色ボタンのランプが点灯します。
■ 電源 ON 時はハ長調（C）に設定されます。
■ トランスポーズは、鍵盤を押した状態では、設定できません。

□ 操作 2

TRANSPOSE ボタン を離します。

■ TRANSPOSE ボタンのランプの点灯は、トランスポーズ オン（移調）状態を表わします。
消灯時は、オフの状態です。
■ トランスポーズを解除したい時は、もう一度 TRANSPOSE ボタン を押してランプを消灯します。
■ TRANSPOSE ボタン のランプは、ハ長調（C）以外のキーにセットされている時に点灯します。

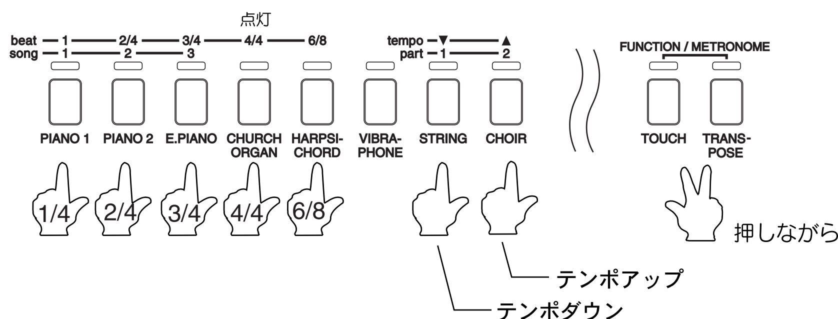
7）メトロノーム

メトロノームを使って練習しましょう。
本機では、1/4 拍子 ,2/4 拍子 ,3/4 拍子 ,4/4 拍子 ,6/8 拍子が設定できます。

□ 操作 1

TOUCH ボタン と TRANSPOSE ボタン を同時に押しながら、次のいずれかの音色ボタンを押し、拍子を指定します。

メトロノームのテンポ変更は、TOUCH ボタン と TRANSPOSE ボタン を同時に押しながら、STRING ボタンまたは CHOIR ボタンを押します。



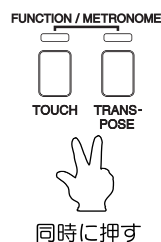
4/4 拍子のメトロノームを鳴らす場合は、TOUCH ボタン と TRANSPOSE ボタン を押しながら、CHURCH ORGAN ボタン を押します。

テンポの値の初期値は ♩= 120 です。 ♩= 30 ～ 300 の範囲で設定できます。
STRING ボタン / CHOIR ボタン を 1 回押す毎に ♩= 2 づつ値が変化します。
押し続けると連続して変化します。

◆電源オン時、TOUCH ボタン と TRANSPOSE ボタン を同時に押した後、音色ボタンで拍子を指定しなければ、自動的に、4/4 拍子 , テンポ 120 のメトロノームが発音します。

□ 操作 3

再度、TOUCH ボタン と TRANSPOSE ボタン を同時に押すとメトロノームは停止します。



3.録音・再生

1）録音

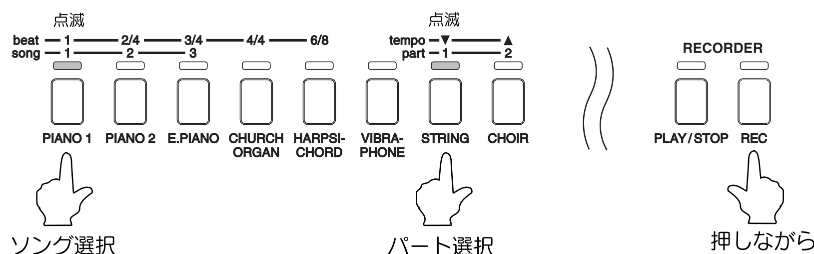
本機では、自分の演奏を 3 曲まで、録音し再生することができます。
それぞれの曲（ソング）は、2 つのパートから構成されており、1 ソングに 2 回の演奏を録音できます。
録音は、録音するソングとそのパートを選択して行います。
song ボタン と part ボタン は、音色ボタンに割り付けられています。

◇ソング 1 のパート 1 に録音をしましょう。

□操作 1

REC ボタン を押しながら , ソングとパートを選択します。

REC ボタン を押した状態で、song ボタン とその part ボタンが各 1 コづつ点滅しています。
この点滅しているボタンが録音の行われるソングとパートです。
下図では、ソング 1 のパート 1 が選択されています。
ソング 1 のパート 1 が選択されていない場合は、song 1 ボタン（PIANO1）と part 1 ボタン（STRING）を押して点滅させてください。



■ソング 2 に録音する場合は song2 ボタン（PIANO2）、ソング 3 に録音する場合は song3 ボタン（E.PIANO）を押して点滅させます。

□操作 2

REC ボタン を離します。

点滅していた song ボタン と part ボタン のランプが消灯すると同時に、REC ボタン のランプが点滅し、録音待機状態となります。
また、同時に音色のランプ（以前に選択されていた音色）が点灯します。
ここで、音色ボタンを押して録音を行う音色を選択できます。
録音を中止する場合は、再度 REC ボタン を押してランプを消灯させます。

□操作 3

鍵盤を弾いて録音をスタートします。

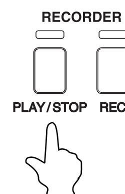
鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、REC ボタンと PLAY/STOP ボタン のランプが点灯します。

■ PLAY/STOP ボタン を押しても録音を開始できます。

□ 操作 4

演奏が終わったら PLAY/STOP ボタン を押して録音を終了します。

REC ボタン と PLAY/STOP ボタン のランプが消え録音が停止します。

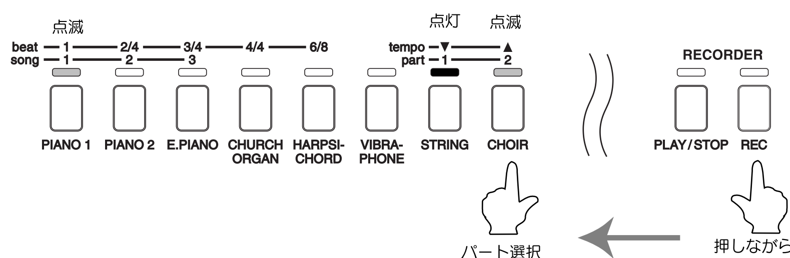


◇ ひき続き、ソング 1 のパート 1 に録音した演奏を聞きながら、パート 2 に録音してみましょう。

□ 操作 1

REC ボタン を押しながら、part 2 ボタン（ CHOIR ボタン ）を押します。

REC ボタン を押したときは、先に録音した song1 ボタン と part 1 ボタン のランプが点滅しています。



指定した song1 ボタン と part 2 ボタン のランプが点滅し、録音待機状態であることを示します。
また、part 1 ボタン のランプが点灯していますが、これは既に録音したパート 1 が再生待機状態であることを示しています。

□ 操作 2

鍵盤を弾きパート 2 への録音を開始します。

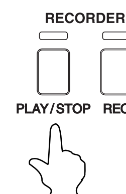
鍵盤を弾くと自動的にパート 2 の録音が開始され、同時にパート 1 の演奏が再生されます。
このとき REC ボタン と PLAY/STOP ボタン のランプが点灯します。

■ 鍵盤を弾かずに PLAY/STOP ボタン を押して録音をスタートさせることもできます。

□ 操作 3

PLAY/STOP ボタン を押し録音を終了します。

演奏が終ったら PLAY/STOP ボタン を押して録音をストップします。
REC ボタン と PLAY/STOP ボタン のランプが消え、パート 2 の録音とパート 1 の再生がストップします。



■ レコーダーの総記憶容量は、約 1,800 音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、録音が中止されます。　中止される直前までの演奏は録音されます。

■ レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えませんが、一度電源を切って一週間ほど電源を入れないでおくとレコーダーの内容が消えてしまいますので、ご注意ください。

2）再生

録音した曲を再生します。

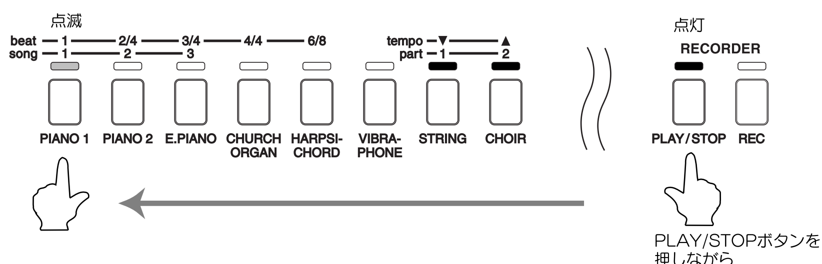
☐ 操作 1

PLAY/STOP ボタンを押しながら再生する song ボタンを押します。

選択した song ボタンは、点滅します。

■ PLAY/STOP ボタンを押した状態で点灯している song ボタンが録音されているソングです。

ソング 1 を再生する場合は、下図の様に PLAY/STOP ボタンを押しながら song 1 ボタンを押して離します。

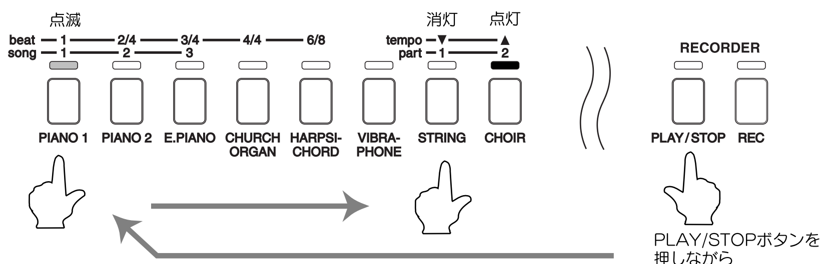


◇ パートのミュート

ミュート（音を消す）では、再生時にパート毎に音を出さないようにすることができます。
本機では、パートボタンのランプを消灯させせることによってミュートすることができます。
ソング 1 のパート 1,2 に録音された曲を再生するときに、パート 1 をミュートし、パート 2 のみ再生する場合は、下記のような操作になります。

☐ 操作 1

PLAY/STOP ボタンを押しながら song 1 ボタンを押し（パート 1,2 が点灯）次に part 1 ボタンを押します（パート 1 は消灯し、パート 2 のみ点灯）。



☐ 操作 2

PLAY/STOP ボタンを離します。

ソング 1 のパート 2 のみ再生されます。

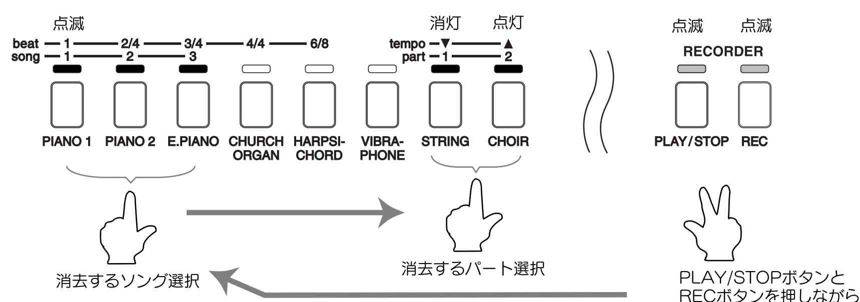
3）パートのデータの消去

録音に失敗したり、いらなくなった曲をパートごとに消去します。

☐ 操作 1

PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを同時に押しながら、消去する song ボタンと part ボタンを選択します。

PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを同時に押すと録音されている song ボタンのランプが点灯します。
消去する song ボタンが点滅します。
次に消去する part ボタンを押してランプを消灯すると、パートのデータが消去されます。

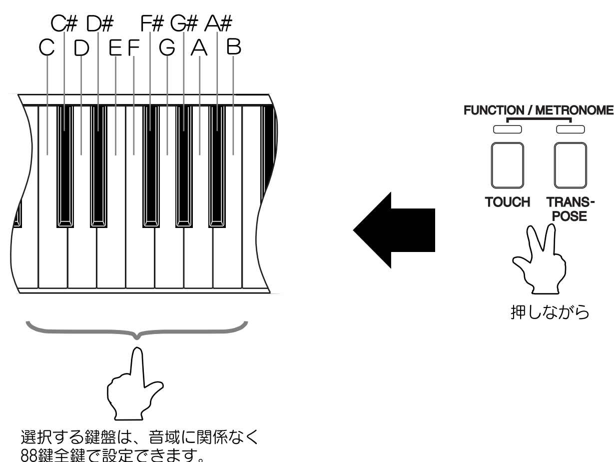


■ 録音されているすべてのソングを消去したい場合は、PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを押したまま、電源を入れてください。

4.設定モード

本機には、ピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
これを " 設定モード " といいます。

設定メニューは、12 個の鍵盤に値や項目が割当てられており、TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら、対応する鍵盤を押すことにより設定できます。



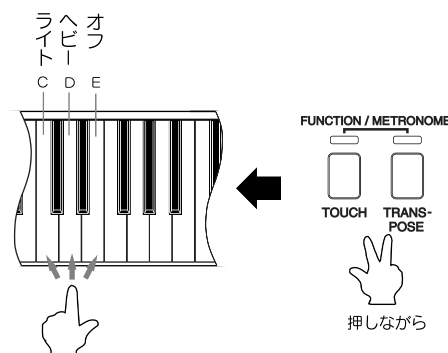
◇ 設定モードのメニューと鍵盤

設定項目	鍵盤	初期値
1）タッチカーブ・セレクト	C（ド）/D（レ）/E（ミ）	ライト
2）チューニング	C#（ド・シャープ）/D#（レ・シャープ）	± 0
3）MIDI 送信・受信チャンネル	A（ラ）/F（ファ）	1ch
4）MIDI チャンネルを 1 にする	G（ソ）	―
5）ローカルコントロール	F#（ファ・シャープ）	オン
6）マルチ・ティンバー・モード	G#（ソ・シャープ）	オフ
7）プログラム（音色）ナンバー送信	A#（ラ・シャープ）	オン
8）リセット	B（シ）	―

■電源を入れたときは、ここで設定した値は自動的に初期値に設定されます。

1) タッチカーブ・セレクト

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。
鍵盤を弾く強さと音量の関係を線グラフにしたものがタッチカーブです。

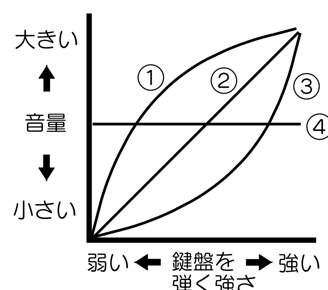


□ 操作 1

TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら、鍵盤 C(ド)/D(レ)/E(ミ)のいずれかを押します。

①ライト［鍵盤 C(ド)を押す］
弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
小さなお子様や、オルガンプレーヤー向きのタッチカーブです。

②ノーマル［TOUCH ボタン消灯時］
アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。



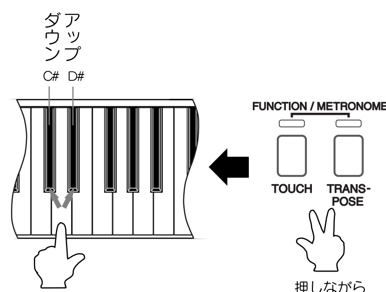
③ヘビー［鍵盤 D(レ)を押す］
強いタッチで弾かないと大きな音がでません。
指の力の強い人や練習向きのタッチカーブです。

④オフ［鍵盤 E(ミ)を押す］
鍵盤を弾く強さに関係なく常に一定の大きさで発音します。

ここで設定したタッチカーブは、再度 TOUCH ボタンを押して点灯させたときに有効となります。
TOUCH ボタン消灯時は、ノーマルに設定されています。
電源を入れたときはライトに設定されているので、TOUCHボタンを押すとライトのタッチカーブになります。

2) チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。
電源を入れた時は、A4=440Hz に設定されます。



□ 操作 1

TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら、鍵盤 D ＃(レ・シャープ)または、鍵盤 C ＃(ド・シャープ)を押します。

鍵盤 D ＃(レ・シャープ)を押す度にピッチが上がり、鍵盤 C ＃(ド・シャープ)を押す度にピッチが下がります。
チューニングできる範囲は± 50 セント（427 ～ 453Hz）で 1 回押す毎に 1.5 セント変化します。（100 セント = 半音）

●値設定の目安

(Hz)	436	438	440	442	444
鍵盤を押す回数	10	5	0	5	10

← D＃を押す　→ C＃を押す

例えば、A4=442Hz にあわせる場合は、5 回 D# を押してください。

◇ MIDI 機能の使い方

ここで、MIDI について説明をしておきます。

● MIDI について

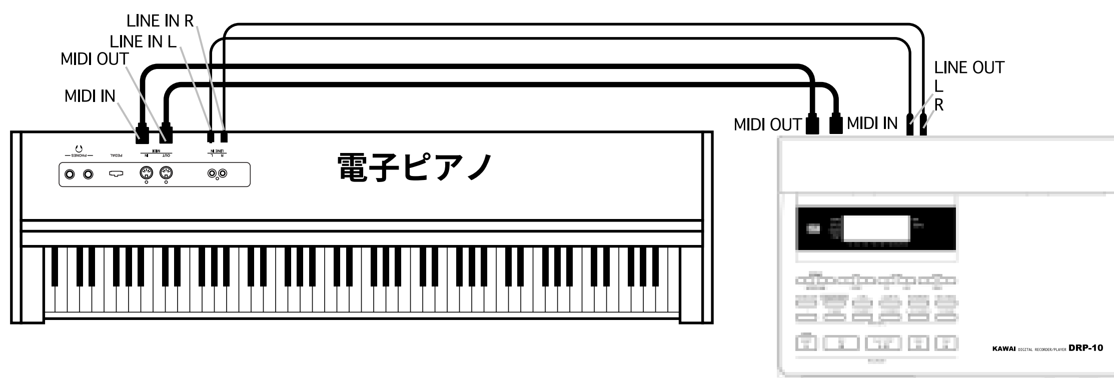
MIDI について簡単に説明します。
MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーや シーケンサー などの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするための世界統一規格です。

本機の MIDI 端子は、IN，OUT の 2 種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。

IN	：	鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT	：	鍵盤情報や音色情報を送信します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの２種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。
受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

■外部機器などを使っての録音 / 再生



図の様にカワイの音源内蔵レコーダー「DRP-10」に接続すれば、電子ピアノの演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（P.23 参照）にして録音 / 再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラホンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。
また、「DRP-10」の場合音源も内蔵してますので、その内蔵音色を使って演奏を楽しむこともできます。

その他、外部機器との接続は、P.24 参照ください。

◇本機 MIDI 機能

本機の MIDI 機能は、以下の通りです。

◆鍵盤情報の送信・受信

電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆送信・受信チャンネルの設定

送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

◆プログラム（音色）ナンバーの送信

電子ピアノと MIDI で接続したシンセサイザー等の音色（プログラムされた音色）を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフトペダルのオン/オフ情報の送信・受信と、ソステヌートペダルのオン/オフ情報の送信ができます。

◆ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

◆マルチティンバーの設定

電子ピアノが受信楽器になっているとき､複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して､各々別の音色を出すことが出来ます。

◆エクスクルーシブデータの送信・受信

フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

◆レコーダーの再生情報の送信

レコーダーに録音した演奏を、MIDI で接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

本機の MIDI 機能についての詳細は、" MIDIインプリメンテーションチャート "（巻末）をご覧ください。

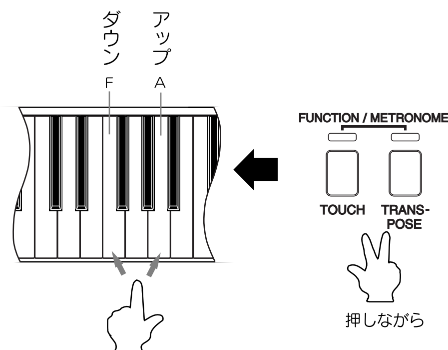
3）MIDI送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。
チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの 2 種類がありますが、本機ではそれぞれ別々のチャンネルに設定することはできません。1 つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。

□ ***操作 1***

TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら、鍵盤 A（ラ）または F（ファ）を押します。

鍵盤 A(ラ)を押す度にチャンネル番号が増えていき、
鍵盤 F(ファ)を押す度にチャンネル番号が減っていきます。
MIDI チャンネルは、1 〜 16 の間で設定できます。
電源を入れたときは、1 チャンネルに設定されます。

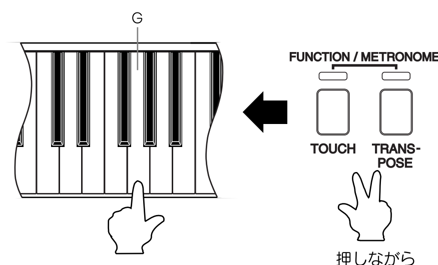


4）MIDIチャンネルを1にする

MIDI チャンネルを 1 チャンネルに設定します。

□ ***操作 1***

TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら、鍵盤 G（ソ）を押します。



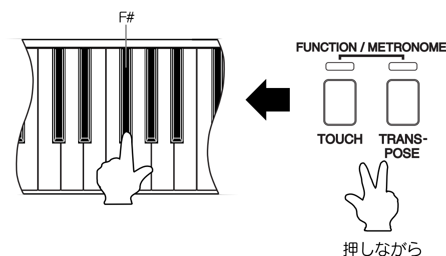
5) ローカルコントロール

ここでは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかの設定をします。
ローカルコントロールが ON のときは、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。
一方、ローカルコントロールが OFF の時は、鍵盤を弾いても音は鳴らず MIDI 情報を MIDI OUT します。
このとき、MIDI 情報を受信したときのみ音が鳴ります。

□ ***操作 1***

TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら、鍵盤 F ＃（ファ・シャープ）を押します。

鍵盤 F ＃(ファ・シャープ)を押す度に ON/OFF が交互に設定されます。
電源を入れた時は、ON に設定されます。



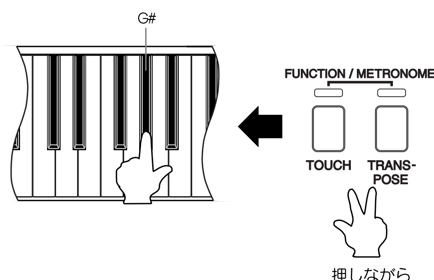
6）マルチティンバー・モード

通常は、設定された MIDI チャンネル（1 〜 16 のどれか 1 つ）で情報を送受信しますが、マルチティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信し、その受信したプログラムナンバーに対応した異なる音色を同時に出すことができます。（受信したプログラムナンバーに対応した音色は下表の通りです。）この機能により、外部のシーケンサーを使って、本機 1 台で複数の音色（マルチティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

（マルチティンバーモードオンの時、10ch で受信したデータは発音しません。）

□ 操作 1

TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら、鍵盤 G #(ソ・シャープ)を押します。



鍵盤 G ＃(ソ・シャープ)を押す度に ON/OFF が交互に設定されます。　　電源を入れたときは、OFF に設定されています。

◆音色に対応する送受信プログラムナンバー

音　色	送受信ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ・ﾅﾝﾊﾞｰ	
	ﾏﾙﾁﾃｨﾝﾊﾞｰ ON 時	ﾏﾙﾁﾃｨﾝﾊﾞｰ OFF 時
PIANO1	1	1
PIANO2	2	2
E.PIANO	5	3
CHURCH ORGAN	20	4
HARPSICHORD	7	5
VIBRAPHONE	12	6
STRING	49	7
CHOIR	53	8

7）プログラム（音色）ナンバー送信

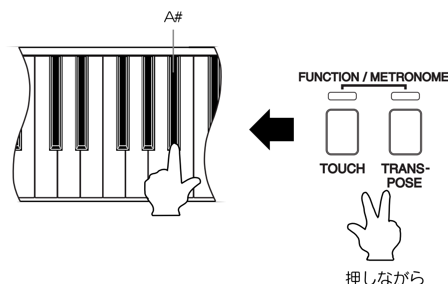
音色ボタンによるプログラムナンバーの送信をするかしないか（オン / オフ）を設定することができます。

本機では、プログラムナンバー送信オンに設定すれば、演奏中に8個の音色ボタンを切り替えることにより、上表に対応したプログラムナンバーを送信できるようになっています。

□ 操作 1

TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら、鍵盤 A #(ラ・シャープ)を押します。

鍵盤 A ＃(ラ・シャープ)を押す度に ON/OFF が交互に設定されます。　　電源を入れた時は、ON に設定されています。

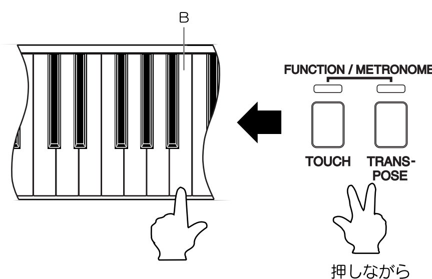


8）リセット

設定モード内で設定した内容を初期の状態（Page...18 参照）にします。

□ 操作 1

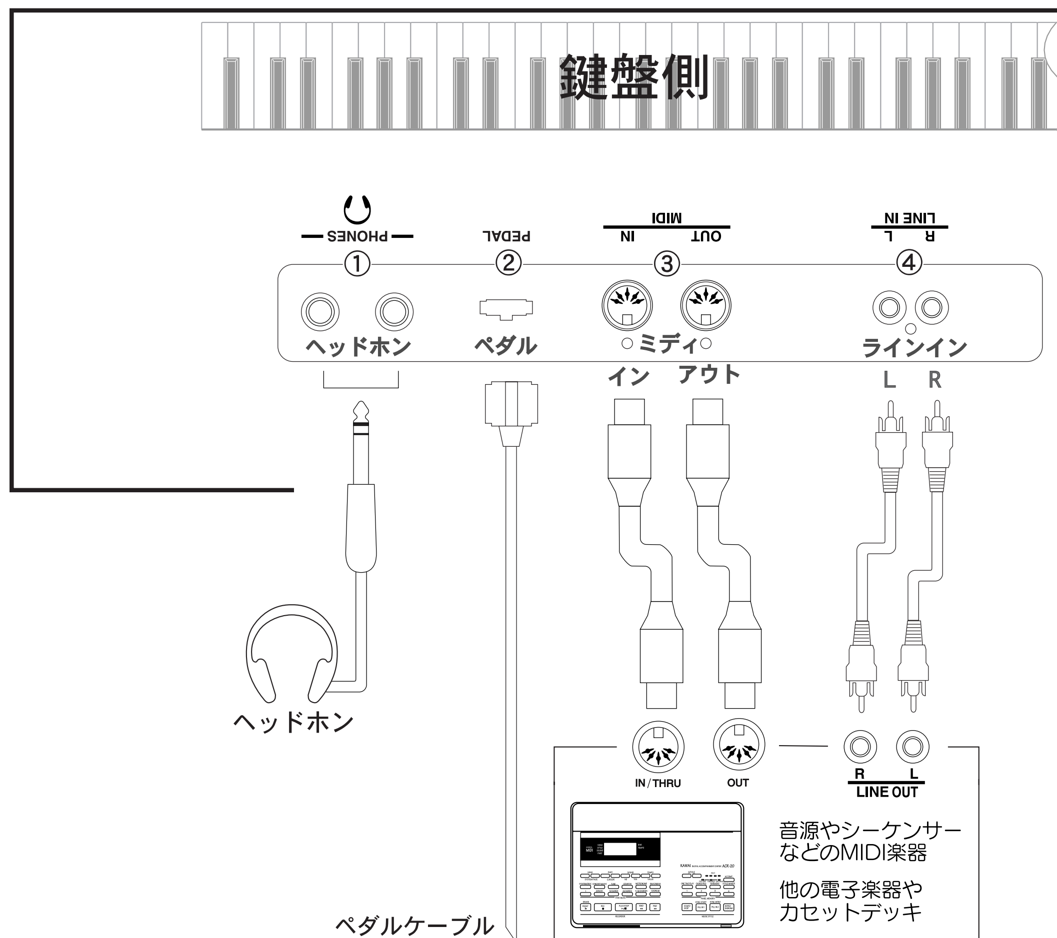
TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら、鍵盤 B（シ）を押します。



5. 付　録

1）外部機器との接続

※電子ピアノを下から見た図です。



① PHONES（ヘッドホン端子）
ヘッドホンを接続する端子です。
2本まで接続できます。

② PEDAL（ペダル端子）
ペダルユニットから出ているペダルケーブルを接続する端子です。

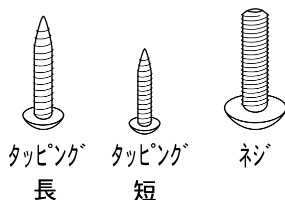
③ MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している楽器と接続する端子です。

④ LINE IN（ライン入力端子）＜ピンジャック＞
他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんのでそれぞれの機器側で調節してください。R（アール）は右側、L（エル）は左側の入力を示しています。

2）スタンド組立方

■パーツ（同梱品）

①側板/妻土台 .... 2（左右）
②裏板 1
③ペダル土台 1
④ネジ 8
⑤タッピングネジ（長） 2
⑥タッピングネジ（短） 4
⑦アジャスター 1



【注意】

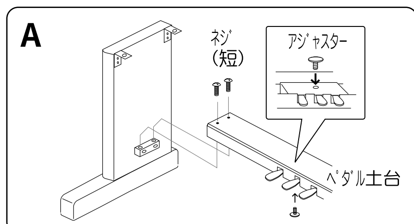
◆パーツがすべて、そろっていることを確認されてから、床やスタンドを傷つけないように注意して組み立ててください。

◆ネジ締めの際、ネジ山、ネジ頭を潰さないよう気を付けてください。

電動ドライバー使用の場合、ネジ山、ネジ頭を潰す恐れがありますので、極力手動にてお願いします。

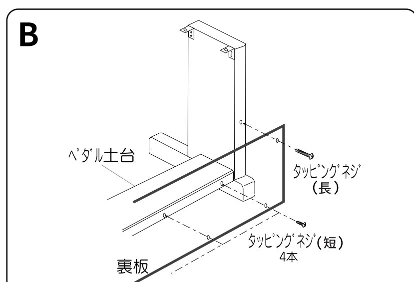
◆組立は、「注意」と「配慮」を持ってお願い致します。

■組み立て順序

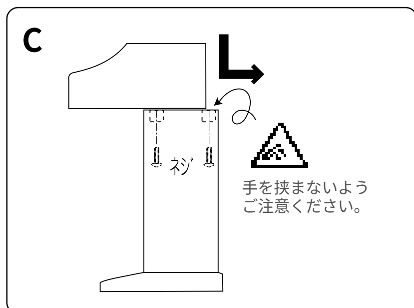


A　ペダル土台の裏側からアジャスター（高さ調整ネジ）を 1cm ぐらいはめこみます。また、ペダル土台に結ばれているペダル接続コードをほどいて、ペダル接続コードを引き出しておいてください。

側板 / 妻土台とペダル土台を 4 本のネジで固定します。この時、側板 / 妻土台とペダル土台を密着させて取り付けてください。
側板 / 妻土台は、左右あるので組み合わせに注意してください。



B　裏板を側板に取り付けます。
タッピングネジ（長）で裏板上部を固定します。次に 4 本のタッピングネジ（短）で下部を固定します。この時、側板と裏板にスキがないように密着させて取り付けてください。

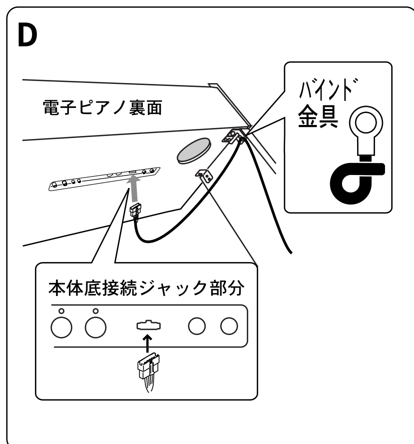


C　本体をスタンドに静かに載せます。真上から見て、本体の後ろに金具の穴が見えるくらい本体の前方に載せます。
スタンドを固定して、本体が傾いて落ちないように一方の手で前部を支えながら本体を後ろにスライドさせると、本体のフックが側板の金具に引っかかります。この時、本体の後ろを支持している手を、側板と本体の間ではさまないように注意してください。

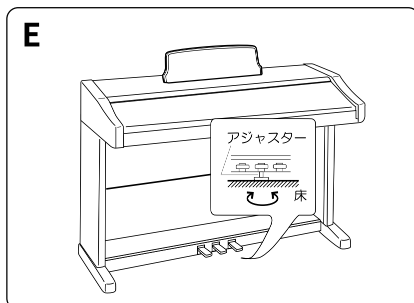
本体とスタンドを 4 本のネジで固定します。
まず、ネジを軽く締めて、4 本のネジがすべてまっすぐ入るように本体の位置を調整してから、きちんとネジを締めるようにしてください。



必ず本体とスタンドをネジで固定してください。
固定しないと、本体がスタンドから落ち、大変危険です。



D　ペダル土台から出ているペダル接続コードを端子の突起部を手前にして本体のペダル端子に差し込み、コードが適当な位置になるような場所にバインド金具で巻き付けて固定して下さい。



E　ペダル土台の裏にはめたアジャスターを、床にピッタリ付くまで回してペダル土台を補強します。



アジャスターボルトをしっかり床に付けないとペダル土台が壊れる恐れがあります。
また移動の際は、引きずらないで、必ず床から持ち上げて移動してください。

3）主な仕様

■ 鍵　盤	88鍵/アドバンスト・ハンマー・アクションⅡ
■ 同時発音数	最大32音
■ 音　色	ピアノ1/2、エレクトリックピアノ、チャーチオルガン、ハープシコード、ビブラホン、ストリング、クワイヤー
■ その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューニング、デュアル、デモ（14曲）、タッチカーブ選択（ライト、ノーマル、ヘビー、オフ）、コーラス、リバーブ（ルーム, ステージ, ホール）、コンサートマジック（40曲）
■ レコーダー	2トラック×3ソング、総記録容量　約1,800音
■ メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、6/8拍子
■ ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート
■ 外部端子	ヘッドホン（2）、ペダル、MIDI（IN、OUT）、LINE IN(L/R)<PIN>
■ 出　力	15W×2
■ スピーカー	12cm×2
■ キーカバー	スライド式
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	35W
■ 仕上げ	ブックソロモン
■ 寸　法	（W×D×H）139.2×46.0×83.9（cm）（セットアップ時、但し譜面台閉）
■ 重　量	38.5Kg
■ 同梱品	本体/スタンド一式/電源コード/取扱説明書（本書）/保証書/スタンド組立図/専用椅子（WB-6）/ヘッドホン（SH-2）/ご愛用者カード/アフターサービスと音楽教室のご案内/「コンサートマジック曲集」のご案内/「コンサートマジック曲集」注文振込用紙（全て各1部）

KAWAI［Model PN270］

MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date : 2000, 5
Version : 1. 0

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ～ 16	1 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊＊＊	モード1 モード1,3 * ×	* 電源 ON 時オムニ・オン。 MIDI チャンネル設定操作によりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	音域	** 15 - 113 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊	0 - 127 15 - 113	**15-113 トランスポーズを含む
ベロシティ	ノート．オン ノート．オフ	○　9nH　v=1-127 ×　8nH　v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ．ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 64 66 67	× ○（右ペダル） ○（中ペダル） ○（左ペダル）	○ ○ × ○	ﾎﾞﾘｭｰﾑ ﾀﾞﾝﾊﾟｰﾍﾟﾀﾞﾙ ｿｽﾃﾇｰﾄﾍﾟﾀﾞﾙ ｿﾌﾄ ﾍﾟﾀﾞﾙ
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○	○	（プログラムチェンジ対応表参照）
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○*** ○*** ×	*** マルチティンバーモード ON の時
備　考				

モード１：オムニオン、ポリ　モード２：オムニオン、モノ
モード３：オムニオフ、ポリ　モード４：オムニオフ、モノ

○: 有り
×: 無し

KAWAI

株式会社 河合楽器製作所

電 子 楽 器 事 業 本 部

〒430-8665　浜松市寺島町200番地

TEL.<053>457-1277 / FAX.<053>457-1279

http://www.kawai.co.jp

KPSZ-0006
0006S - Printed in Japan